

汁をすい、本膳のさいをくふべし、此後からはめしを喰、二之汁をくひ、二の膳の菜をくい、又めしをくい、本膳の汁さいをくい、又めしを喰、三之膳とうつる也、向詰も又かゝのごとく也、左に在菜を左にて取あげ、右にある菜を箸を取直し右にて取、左にうつし、喰候而右にうつし下に置也、本膳のものを取上て喰べからず候、膳の上に少にてもくいこぼし汁などをくいちらす事、至極の不仕付なり、汁にひたしたる菜ならば、はさみあげて汁わんの上通りにてくふべし、くい終る時も、くい初たる菜にておさむべし、始終扇をばぬき脇に置、脇指をぬかすして有べし、○中わんを取あげ喰候時、少もうつぶかす、左の臂をやすらかにして右のひぢをはるべし、ひぢをはらざる時は、箸斜に成て、長く口中に入、多くよごれてびろう也、扱はしを取候も、貴人の御前にて長く取べからず候、膳半に鼻紙にて口をぬぐふ時などは、はしを飯椀と汁椀との間にすじかへて置、湯をのみ仕廻候時は、本をとゝのへ、本式のごとく置也、總而の膳部を、むさくくいよごさぬやうにすべし、諸事につけてらうせきなるべからず候、くふべきものは皆くい、くふまじきとおもふものは、ふたを取たるぶんにてくはぬもよし、乍然半喰さしたりとも、跡に氣をつけ見苦しからざるやうに嗜むべし、小人などは別而此心得かんようなり、

〔食物服用之卷〕粥之事

一はしをおさめてのち、はしをとりあぐる事は如何、但年よりたる人はくるしかるまじき也、○中略

一はしはもとすゑと申也、若衆などは左にてはしをとりあげ、右のかたのはしすゑよりくふべし、其外は右にてとりあげ、左のはしすゑよりくふべし、このせつもありといへども、まへにきたがふべし、

一はしはさきは一寸をす物也、ふかくをすはいやしき事ぞ、○中略